



# 多文化共生とは、何か？

## はじめに

ここでは、「多文化共生って、なんだろう？」「何から学んでいけば良いのだろうか？」ということについて考える。

筆者が勤務する小学校には、外国にルーツをもつ児童が複数名在籍している。児童のもつ母語や母文化は様々である。これらの児童らを担任する中で、筆者自身の感じた「外国にルーツをもつ児童と共に学ぶということは、こういうことか！」「外国にルーツをもつ児童と共に学ぶ時に、こんな知識があるとよかったな！」という発見やふり返りをもとに、学びのプログラムを作成したものである。

同級生、担任と様々な立場から、「外国にルーツをもつ児童生徒と共に学ぶ」という視点から、多文化共生について考えていきたい。

このプログラムは、外国人児童生徒等に対する日本語指導を行う際の視点も取り入れている。外国人児童生徒を担任する先生にも、この学びのプログラムを活用していただけたら幸いである。

## 参加のルール・アクティビティの解説

- ・この教材では、参加者同士で「多文化共生」について話し合うことで、自分にできることは何かを考えたり、他者理解を深めたりすることをねらいとしている。その時、「正しい考え」「間違った考え」というものはない。他者の発言を否定するのではなく、「自分とは異なる考え方だが、そのような考え方もあるのだな。」と受け入れ、その上で自分の考えも相手にわかるように伝えることが大切である。
- ・アクティビティは、「日本で暮らす日本人の立場」、「外国にルーツをもつ児童生徒の立場」の2つの立場から考え、両者の共通点や相違点について話し合うものである。クラスの中に、外国にルーツをもつ児童生徒がいない場合は、「もし自分が、外国に引っ越して現地の児童生徒が通う小中学校に通うことになったら？」と仮定して考える。

## 全体のねらい

- ・小中学校の「自分のクラス」に在籍する外国にルーツをもつ児童生徒の気持ちを考える活動を通して、多文化共生社会において自分にできることは何かを考える。
- ・小学校高学年の児童や中学校の生徒たちは、自分らしさ（アイデンティティ）の確立のために、悩み、葛藤することも多いのではないだろうか。そんな児童生徒たちが、同世代の仲間の置かれた様々な状況を体験し、気づきを共有することで、自分らしく生きるヒントを見つけられるようにする。

## 学習計画（全2時間）

- (1) 「日本人」「外国人」の2つの立場から、友達に望むことは何かについて考えよう。
- (2) 「私」が「私らしく」生きていくために、大切なことは何かについて考えよう。

## 教科・領域との関係

道徳、総合的な学習の時間、特別活動等。

## アクティビティ1 「『私』が望んでいることは、同じかな？違うかな？」

### ●概要

場面設定は、小学校または中学校のとあるクラスである。クラスには、外国にルーツをもつ児童生徒が在籍しているものとする。「日本人」「外国人」の2つの立場から、「自分がやりたいこと（または相手に望むこと）」が書かれているカードを、優先順位が高い順に並び替える。（ダイヤモンドランキング）

### ●ねらい

「日本人」「外国人（外国にルーツをもつ児童生徒）」の2つの立場から、学級や友達に望むことを考えることで、様々な考え方があり、自分にできることは何かを考える。

### ●主な対象

小学生以上

### ●用意するもの

- ・ワークシート①（P39～40）（全員分）
- ・ダイヤモンドランキングカード（P38）（グループに1セット）

### ●所要時間

45～50分間

### ●用語の解説

- ・多文化共生

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと（総務省、2006）

- ・外国にルーツをもつ子ども

親の両方または片方が外国籍を有する児童生徒のこと。生まれた国が母国の場合もあれば日本の場合もある。または、両親ともに日本人であるが、外国で生まれたり、一定期間外国で生活したりして後に帰国した児童生徒のこともいう。

### ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点
1. 自分が「日本人」という立場から、ダイヤモンドランキングを完成させる。 「あなたが、外国から来た同級生に望むことはなんですか？」	<ul style="list-style-type: none"><li>・用意するカードは、P38に示す9枚である。</li><li>・1グループ3～4人で活動する。</li><li>・優先順位1位は1枚、2位は2枚、3位は3枚、4位は2枚、5位は1枚をそれぞれ選び、机上にダイヤモンドランキング型に置いていく（ワークシート①の図を参照）。</li><li>・カードを並べる時間は、10分間程度とする</li></ul>

<p>2. 自分が「外国人」という立場から、ダイヤモンドランキングを完成させる。 「あなたが、日本人の同級生に望むことはなんですか？」</p> <p>3. 1、2で作成したダイヤモンドランキングを比較して、考えたことを交流する。 「2つのダイヤモンドランキングを比較して、どのようなことを考えましたか？」</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「日本人」と「外国人」でのランキングの違いについて話し合う。ランキングが同じだった場合、違った場合、共にその理由についてグループ内で意見交換する。</li><li>・ グループで話し合ったことを、他のグループとも交流して、共通点を探る。</li></ul>
--	--

ダイヤモンドランキングで使用するカード  
(コピーして切り離してください)

①自分の国の言葉で  
会話がしたい。(日  
本語または外国語)

②自分の国の文化  
(食事や遊び等)を  
紹介したい。

③友達になってほし  
い。

④そっとしておいて  
ほしい。(話しかけ  
ないでほしい。)

⑤「○○○人だから」  
という偏見を、捨  
ててほしい。

⑥自分の国の人に接  
するように、平等  
に接してほしい。

⑦自分の国の文字を  
使って活動(交流)  
したい。

⑧進路の情報を教え  
てあげたい。教え  
てもらいたい。

⑨地域の人と仲良く  
なってほしい。(仲  
良くなりしたい。)

# 「『私』が望んでいることは、同じかな?違うかな?」

( )年 ( )組 氏名( )

ダイヤモンドランキング～ ①「日本人」の立場から

1位 1枚

2位 2枚

3位 3枚

4位 2枚

5位 1枚

ダイヤモンドランキング～ ②「外国人」の立場から

1位 1枚

2位 2枚

3位 3枚

4位 2枚

5位 1枚

○ 2つのダイヤモンドランキングを比較して、気付いたことを書きましょう。

## ●資料・解説

上記のカード9枚の内容は、筆者自身が担任したことのあるクラスの児童の実態を参考に作ったものである。加えて、筆者が受講した「令和2年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修（N I T Sオンライン研修）」の講義内容を基に作成した。

「日本人」の立場で優先順位考えた場合、予想される上位のカードは、「何か支援をしてあげたい」に関連したカードである。つまり①や⑦の言葉を教えてあげたい、②の日本文化を教えてあげたい、などが考えられる。

その一方で、「外国人」の立場で優先順位を決めた場合、予想される上位のカードは同じでも、意味合いが異なってくることを児童生徒に知ってもらいたい。外国にルーツをもつ児童生徒は、1日も早く日本語の読み書きができるようになり、学校生活に慣れることを望んでいるだろう。しかし、初めて来た日本という国で、母語が使えないことは、かなりのストレスとなるようである。

外国にルーツをもつ児童生徒の自分らしさ（アイデンティティ）の確立のためには、母語で会話をし、母語で読み書きをする機会を持つことは非常に大切なことであると考え。つまり、「外国人」の立場から言えば、上記のカード①⑦は、自分が自分らしく存在するための願いなのである。

カード⑧の進路については、小学校から中学校への進学のように、受験なしに高校に進学できると考えており、受験直前になって困惑する外国人保護者がいるというような状況もある。学校においても、外国にルーツをもつ保護者に対して、十分な情報の提供や説明、配慮がなされていないということがあるのではないだろうか。日本の進学の制度についての情報共有は、外国にルーツをもつ児童生徒にとっては、日本で生活していく上で必要度の高い情報だと考える。

また、アクティビティ2でも扱うが、日本では、未だに外国人への差別や偏見は残っている。東広島市国際化推進プランにも書かれているように、「外国人」は支援するだけの対象ではなく、共に未来を創っていく「仲間」という意識を高められるよう教師は支援していきたい。

## アクティビティ2「私は、これを望みます！」

### ●概要

このアクティビティのキーワードは、「自己のアイデンティティの確立」である。

私たちは、性別、出身地、国籍などによって差別されることなく、誰もが大切な存在である。これは、国際法（例：「国際人権規約」「人種差別撤廃条約」「子どもの権利条約」など）から考えても、大切な視点である。ところが、悲しいことではあるが、日本において差別や偏見により自分らしく生きていくことに苦しみを感じている児童生徒たちがいる。

そこで、このアクティビティでは、私たちが「自分らしく」生きていくために必要なことは何か、自己のアイデンティティ（存在証明）は何によってなされるのかを、みんなで考える。

使う資料は、「NIKE JAPAN」が公開したユーチューブ動画「動かしつづける。自分を。未来を。The Future Isn't Waiting.」である。この動画は、差別などの葛藤をスポーツで乗り越えていく少女たちの様子が描かれている。この資料を入りに、自分が、そしてみんなが自分らしく生きていくために、「自分にできることは何か」「大切にしたいことは何か」を考える。

### ●ねらい

自分らしく生きていくことができない若者の苦悩について話し合う活動を通して、誰もが自分らしく生きていくために大切にしたいことは何か気づき、実際に行動することができるようにする。

### ●主な対象

小学生以上

### ●用意するもの

YouTube動画（[https://youtu.be/G02u6sN\\_sRc](https://youtu.be/G02u6sN_sRc)）、ワークシート②（P45）（全員分）

### ●所要時間

45～50分

### ●用語の解説

・国際人権規約

国際人権規約は、世界人権宣言の内容を基礎として、これを条約化したものであり、人権諸条約の中で最も基本的かつ包括的なものである。社会権規約と自由権規約は、1966年の第21回国連総会において採択され、1976年に発効した。日本は1979年に批准した。

経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約（A規約）の中で、本アクティビティと関連のある条文は、『（中略）国際連合憲章において宣明された原則によれば、人類社会のすべての構成員の固有の尊厳及び平等かつ奪い得ない権利を認めることが世界における自由、正義及び平和の基礎をなすものであることを考慮し、これらの権利が人間の固有の尊厳に由来することを認め、…』である。（※ 外務省HPより抜粋。文末表現は作者が変更した。）



・人種差別撤廃条約

人種差別撤廃条約は、人権及び基本的自由の平等を確保するため、あらゆる形態の人種差別を撤廃する政策等を、すべての適当な方法により遅滞なくとることなどを主な内容とする。1965年の第20回国連総会において採択され、1969年に発効した。日本は1995年に加入した。（※外務省HPより抜粋。文末表現は作者が変更した。）

・子どもの権利条約

「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約である。18歳未満の児童（子ども）を権利をもつ主体と位置づけ、おとなと同様ひとり人間としての権利を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要な子どもならでの権利も定めている。前文と本文54条からなり、子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するために必要となる具体的な事項を規定している。1989年の第44回国連総会において採択され、1990年に発効した。日本は1994年に批准した。（※ unicefのHPより抜粋。文末表現は作者が変更した。）

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点
<p>1. 動画を視聴して、感じたことを話し合う。 「動画を観て、感じたことを話し合しましょう。」 (話し合いのポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・差別と葛藤</li> <li>・ありのままに生きることの難しさ</li> <li>・自分らしさ</li> </ul> <p>2. 動画に出てきた少女たちが、葛藤を乗り越えることができた理由について話し合う。 「どうして少女たちは、葛藤を乗り越えることができたのか。」 (話し合いのポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葛藤を乗り越えた理由</li> <li>・日本人と「外国人」</li> <li>・自分のルーツ</li> <li>・仲間の存在</li> </ul> <p>3. ワークシート②「私は、これを望みます！」を全員に配布し、ワークシート②の(1)「私が私らしく生きていくために、まわりに認めてほしいことは、何か。」について考える。 ワークシートをもとに、自分が自分らしく生きていくために、何が必要かを2つ選び、それを選んだ理由について考えをグループ内で交流する。</p>	<p>1. 動画を流す際に、事前説明は何もない方が先入観なしに見ることができると考える。視聴後の話し合いは、何を語ってもよいが、他者の意見を否定することはルール違反であることは伝えておく。</p> <p>2. 外国にルーツをもつ少女たちである。少女たちを取り巻くマジョリティ（大多数の日本人の同級生）の心理ではなく、ここでは、葛藤する少女たちのマイノリティの心情を中心に挙げた。</p> <p>3. 「私」が「私」であるために大切なことについて話し合う。1グループの人数は、3～5人程度がよい。 選択に迷う児童生徒には、「自分が外国に行って、マイノリティ（少数派）の立場になったとき」を想像させることで、具体的なイメージをもとに選択できるようにする。その際、「わたしが外人だったころ」という絵本の読み聞かせをするのもよい。</p>

自分が選択した必要なものを発表するとき、「私が選んだのは～です。理由は、～だからです。」を、発表の仕方の基本とする。可能であれば、「もし、（選んだ内容）が認められなかったら、私は～になる（～だ）。」と、自己の葛藤を伝える。

#### 【選択肢】

- ・名前（通称名、本名）を受け入れてもらえること
- ・出身地（地域・国）によって差別されないこと
- ・日本人でも外国人でもクラスの大切な存在として認めてもらえること
- ・好きなこと（スポーツ、趣味など）を認めてもらえること
- ・自分が認識している、ありのままの性を受け入れてもらえること、性の平等が認められていること
- ・学歴ではなく、その人の「できること」で評価してもらえること

#### 4. ふり返り

（ふり返りのポイント）

- ・自己のアイデンティティ（存在証明）
- ・自己と他者との認識のズレ
- ・自分にできること

### ●資料・解説

動画に出てくる少女たちの葛藤の一つとして考えられるのは、「自分は何者か？」という自己への問いではないだろうか。特に注目したいのは、名前である。名前は、「自分らしさ」をあらわすアイデンティティの大事な部分を担っています。動画の中でも、ある少女は、葛藤を乗り越えたとき、2つの名前をユニホームの背中に記していた。（一つは「YAMAMOTO」、もう一つは「KIM」である。）

このアクティビティを通して、自分が求めることと、他者が求めるものを比較してほしい。人により求めるものが違うことを知ることも、多文化共生の第一歩であると考えよう。

# 「私は、これを望みます！」

( )年 ( )組 氏名( )

(1) 私が「私らしく」生きていくために、まわりに認めてほしいものは、次のどれですか。  
2つ選びましょう。その理由も、書きましょう。

①名前（通称名、本名）を受け入れてもらえること	②出身地（地域・国）によって差別されないこと	③日本人でも外国人でもクラスの大切な存在として認めてもらえること
④好きなこと（スポーツ、趣味など）を認めてもらえること	⑤自分が認識している、ありのままの性を受け入れてもらえること、性の平等が認められていること	⑥学歴ではなく、その人の「できること」で評価してもらえること

→ 私が認めてほしいのは、( )と( )です。

【理由】

(2) ふり返り ～ 同じグループの人と意見交換をして、感じたことを書きましょう。




## おわりに

筆者が、JICA中国の「2020年度開発教育教員研修アドバンスコース」に参加し、東広島市でフィールドワークを行なったときに、「東広島市国際化推進プラン」について学ぶ機会があった。

この推進プランに出てくる、次の3つの言葉が筆者は大好きである。

- ・心豊かに安心して暮らせる多文化共生のまちづくり
- ・みんながつながるまちづくり
- ・世界とつながり未来を創り出す多文化共生の町

※東広島市HP「東広島市国際化推進プラン」より引用

日本人、外国人、外国にルーツをもつ人々など、様々な背景をもつ人々と共に暮らすことで、多くの発見がある。新しい価値観を知ることができる。自分の人生は大きく広がっていく。国や地域、その人がこれまで歩んできた道が違えば考え方も様々である。互いの価値観を尊重し合い、共に生きていく「仲間」と一緒に、多文化共生のまちづくりを進めていきたい。

そんな「多文化共生」について学ぶうえで、この学習プログラムが何かのお役に立てば幸いである。

## 参考・引用資料

(アクティビティ1)

- ・独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター、2006年、『教室から地球へー開発教育・国際理解教育 虎の巻～人が育ち、クラスが育ち、社会が育つ～』東信堂
- ・東広島市HP「東広島市国際化推進プラン」  
<https://search.city.higashihiroshima.lg.jp/kurashi/shiminkyodo/2/25524.html>
- ・令和2年度「外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修（NITSオンライン研修）」  
明治大学 特任教授 佐藤郡衛『外国人児童生徒等教育の現状と課題ー多文化共生・学習権・市民性の視点からー』講義資料

(アクティビティ2)

- ・NIKE JAPAN You Tube「動かしてつづける。自分を。未来を。The Future Isn't Waiting.」  
([https://youtu.be/G02u6sN\\_sRc](https://youtu.be/G02u6sN_sRc))
- ・外務省HP (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kiyaku/index.html>)  
(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinshu/index.html>)
- ・unicef HP ([https://www.unicef.or.jp/about\\_unicef/about\\_rig.html](https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig.html))
- ・肥下彰男・阿久澤麻理子〔編著〕 協力（一財）アジア・太平洋人権情報センター、2015年、『地球市民の人権教育 15歳からのレスンプラン』解放出版社
- ・開発教育研究会〔編著〕、2012年、『身近なことから世界と私を考える授業II オキナワ・多みんぞく・核と温暖化』明石書店
- ・鶴見俊輔 文 佐々木マキ 絵、1995年、たくさんのふしぎ傑作集『わたしが外人だったころ』福音館書店